

急傾斜地崩壊防止工事における設計委託特記仕様書

擁壁

擁壁の位置及び工法等を検討し、崩壊土砂を捕捉するためのポケット容量を確保するために無理な切土をしないよう計画する。やむを得ず切土する時には以下の点に留意する。

- ・ 工事中の切土面への対策

掘削作業中に落ちてくる石や土砂の直撃から作業員等を守るための対策として必要と認められる場合は、落石や表層崩壊に対し、シート、ネット、モルタル（コンクリート）の仮吹付等に対応する。

- ・ 切土勾配を緩くする

施工中の切土は労働安全衛生規則第 356 条及び第 357 条に定められた勾配により計画されるが、作業中の安全を確保するため必要と認められる場合は、切土勾配を緩くし土砂の崩落防止を図る。

- ・ 切土面上部の補強工法の検討

表土が厚い等、土砂の崩落の危険性が高く、作業中の安全を確保するため必要と認められる場合は、ロックボルト工などにより、切土面上部の補強工を検討する。

型枠

- ・ 残存型枠工法の検討

従来工法と比較し工程・安全性・施工性・経済性等に有効性が認められるかどうか検討する。なお総合的に判断し、有効性が認められる場合には、積極的に採用を検討するものとする。